

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化に触れる機会を提供	1 誰もが文化に触れ合い、創出し合う機会の提供	(1) 誰もが文化芸術活動に親しむことができる場や環境づくり	1.夜間開館等を利用した講座等の実施	生涯学習部公民館	A(80~100%)	広く市民が参加しやすいよう、夜間や土日を利用して74の講座・行事等を開催し、1,902人が参加した。 (参考:令和3年度実績 10講座 273人参加)	広く市民が講座や行事に参加しやすいよう、令和5年度以降も引き続き、夜間や土日・祝日の開催に努める。
				生涯学習部図書館	A(80~100%)	・市立図書館で土日に開催した講座は36講座、計717人が参加した。 (参考:令和3年度実績 22講座 377人参加)	土日に開催する講座は人気が高いため、定員数の見直しをするとともに、図書館を利用していない市民に向けLINE等を活用し開催の広報を行う。
			2.利用しやすい公民館の施設予約の実施・検討	生涯学習部公民館	A(80~100%)	指定管理者制度導入の公民館において、利用者アンケートの結果を確認し、施設予約に関する要望の状況を把握した。 また、日頃より、受付が混雑する場合は番号札を渡す、部屋の空き状況が変更となった場合は速やかに利用者へ案内するなど丁寧に対応し、利用しやすい予約環境を整えた。	利用者アンケートの結果を踏まえ、他市の事例を調査・研究する。 なお、公民館の運営にあたっては受付窓口が利用者と職員のふれあい・交流の場となっていることや、高齢者の利用インターネットを利用していない方の利用にも配慮した利用方法を検討する必要がある。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	事業実施における課題点や令和5年度以降の実施予定	
文化に触れる機会を提供	1 誰もが文化に触れ合い、創出し合う機会の提供	(1) 誰もが文化芸術活動に親しむことができる場や環境づくり	3 高齢者を対象とする講座や事業での文化芸術に親しむ内容の充実	健康福祉部高齢者支援課	A(80~100%)	<p>[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。</p> <p>・あじさいクラブ 当初予定どおり以下の3事業を新型コロナウイルス感染症予防策を講じて実施。 「芸能・カラオケ大会」7月8日、習志野文化ホールで開催参加者453名(出演64名、見学390名) 「囲碁・将棋大会」8月19日、新習志野公民館で開催参加者16名(囲碁10名、将棋6名) 「作品展」(会員作成の工芸、陶芸、書、写真、絵画を展示) 12月6日~9日、市役所1階展示スペースで開催 出品者64名、展示作品97点、延見学者390名</p> <p>・高齢者福祉センター芙蓉園 「芙蓉園サークル作品展・ハザー及びシルバー人材センター作品展」 【開催日】3月10日~3月11日 【開催場所】高齢者福祉センター芙蓉園 【内容】サークル活動団体の創作による作品展やハザー 【来場者数】延べ277人(出演者含む)</p> <p>・老人福祉センターさくらの家 「第25回さくらまつり」 【開催日】11月8日~11月12日 【開催場所】老人福祉センターさくらの家 【内容】各サークル活動団体の発表(社交ダンス、カラオケなど) 【来場者数】延べ717人(出演者含む)</p>	日頃、高齢者が取り組んでいる文化芸術活動の成果を発表する場を提供することは、生きがいづくりに結び付くことから、左記の各事業の開催は妥当と考える。次年度以降も新型コロナウイルス感染症等の拡大防止に努めながら実施していく。
				生涯学習部公民館	B(21~79%)	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止や真夏の熱中症対策のため、中止や回数等を縮小して実施したが、寿学級を中心とし、7講座延べ3,364人が参加した。うち、寿学級は6公民館で165回実施し、延べ3,155人が参加した。</p>	地域の高齢者の参加を促進するため、引き続き多様化するニーズに応えられる魅力的な講座や学習内容の拡充に努めるとともに、寿まつりの実施や創作活動等高齢者の文化芸術に親しめる環境づくりに努める。
			4 図書館資料の充実	生涯学習部図書館	A(80~100%)	<p>・資料の購入や除籍、寄贈本の受入による蔵書の整備及び更新を行うことで、市民の学習に役立つ新たな資料を提供できた。 ・「予約・リクエスト制度」を通じて、市民ニーズに考慮した資料整備を行った。</p> <p>※令和5年3月31日現在 ・市内全館購入点数:16,522点、購入金額:32,720,055円、寄贈本受入冊数1,649冊 ・予算額 32,735千円 執行率99.95%</p>	引き続き、購入や寄贈本の活用により、資料の充実に努める。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化に触れる機会 の提供	1 誰もが文化に触れ合い、 創出し合う機会の提供	(2) 地域の文化活動の 推進	5.市民文化祭の実施	協働経済部協働政策課	A(80~100%)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、コミュニティセンター4館全てにおいて計8日間にわたり市民文化祭を開催し、延べ4,201名が来場した。	令和5年度も引き続き市民文化祭を実施する。
				生涯学習部社会教育課	B(21~79%)	令和4年度習志野市芸術文化協会主催市民文化祭実績 期間: 令和4年11月3日(木祝)~11月23日(水祝) 参加団体数: 66団体 参加人数: 1,422人 出品点数: 150点 来場者: 3,263人 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度と比較し、参加団体や出品点数等は少なかったが来場者数は戻りつつある。(令和元年度 来場者数: 3,459人)	新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類相当に引き下がることに伴う開催方法の変化に対応する。習志野文化ホール長期休館やJR津田沼駅南口駅前開発に伴い発表の場所の確保が課題であるが、様々な可能性を模索していく。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	6公民館すべてで市民文化祭を開催し、198団体のべ6,903人が参加した。	地域の文化振興とサークルの発表の場・交流のため引き続き市民文化祭を実施していく。
				生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	市役所ハミング階段にて、市内で活動する団体(菊田神社囃子連、習志野お琴・三絃サークル)による演奏会を実施した。 お囃子: 令和4年8月26日(金) 来場者 41人 お琴・三絃: 令和5年1月4日(火) 来場者数 59人	令和5年度は、実施手法を変更しながら開催する。
6.市庁舎等での発表機会の提供	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	市役所ハミング階段にて、市内で活動する団体(菊田神社囃子連、習志野お琴・三絃サークル)による演奏会を実施した。 お囃子: 令和4年8月26日(金) 来場者 41人 お琴・三絃: 令和5年1月4日(火) 来場者数 59人	令和5年度は、実施手法を変更しながら開催する。			

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や令和5年度以降の実施予定
文化に触れる機会を提供	誰もが文化に触れ合い、創出し合う機会の提供	(3) 保育付きや親子で参加できる講座の充実	7. 保育付きの講座やイベントの充実	こども部こども保育課	C(0~20%)	新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、開催できなかった。	順次講座やイベントを再開していく。
				こども部子育て支援課	C(0~20%)	新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、開催できなかった。	順次講座やイベントを再開していく。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	子育て中の家族が参加しやすいよう、令和4年度は「幼児家庭教育学級」(3歳児対象)や子育てリフレッシュ講座など18講座が保育サービス付きで実施され、延べ1,094人が講座に参加した。	子育て中の家族が参加しやすいよう、引き続き、保育サービスのある講座を実施する。
			8. 親子で参加可能な講座やイベントの充実	こども部こども保育課	C(0~20%)	新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、講座やイベントは中止となった。	順次講座やイベントを再開できるようにしていく。
				こども部子育て支援課	B(21~79%)	新型コロナウイルス感染症拡大対策を講じながら、縮小して開催した。	これまで中止にしていた講座やイベントについても、状況をみながら実施する。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	令和4年度は1,499人の親子が工作や料理など29講座等に参加して楽しんだ。	引き続き、親子で参加して楽しめる内容の講座や行事を充実させる。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化に触れる機会 の提供	誰もが文化に触れ合い、 創出し合う機会の提供	(4) 障がい者や外国人が文化芸術活動を発表・体験する機会の提供	9.障がい者が制作した作品展示や、演奏等発表の場の提供	健康福祉部健康福祉政策課	C(0~20%)	福祉ふれあいまつり実行委員会を開催し、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「福祉ふれあいまつり」の開催の中止を決定した。	福祉ふれあいまつり実行委員会において、令和5年10月29日の開催が決定され、障がい者によるステージパフォーマンスをする。
				健康福祉部障がい福祉課	A(80~100%)	障害福祉サービス事業所「花の実園」の利用者が作成したちぎり絵を、市庁舎にて展示会として開催した。 【期間】 令和5年1月6日~令和5年1月13日 上記展示会の他、障害福祉サービス事業所「花の実園」の利用者が作成したちぎり絵については、常設展示をしている。	障害福祉サービス事業所「花の実園」の利用者が作成したちぎり絵を、市庁舎にて作品展示を行う。
				生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	習志野文化ホール長期休館に合わせて障害福祉サービス事業所「花の実園」にホールをモチーフとしたちぎり絵制作を依頼。最終開館日の記念行事の際、展示した。 また、市が支援する芸術文化協会行事『芸術祭』や『市展』等でも花の実園やレインボー学園のちぎり絵を展示し、発表の場を確立している。	習志野文化ホールに展示されていた絵画等の美術展を実施し、そこに市が制作を依頼した花の実園のちぎり絵作品も展示し、より多くの市民の目に触れる機会を創出する。
				生涯学習部公民館	C(0~20%)	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各館とも障がい者が制作した作品展示や、演奏等発表の場を提供することができなかった。	市民文化祭等で県立習志野特別支援学校や学区小中学校の特別支援学級児童の作品を展示できるよう各学校へ依頼する。
				協働経済部協働政策課	A(80~100%)	令和4年度は隔年実施している姉妹都市との青少年交流事業(派遣・受入)の実施年度であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 日本語教室部会主催の日本語教室は、対面開催の再開に伴い、学習会場の提供や市国際交流協会への補助金交付をとおした経済的支援を行い、実施回数402回、受講者は3,483名であった。(オンライン開講を含む)	令和6年度の青少年交流事業に向け、市国際交流協会との運営会議や市内学校との4校合同会議において打ち合わせるほか、適宜渡航状況を確認し、安全かつ安心な実施準備をおこなう。また、タスカーサ市担当と協議を重ね、交流計画を立てる。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化に触れる機会 の提供	2 身近な場所で質の高い文化芸術鑑賞機会の提供	(1) 習志野文化ホール・市民ホールでの幅広い鑑賞機会の提供	11.33.文化芸術の鑑賞機会の提供	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	習志野文化ホールと市民ホールでは、開催を予定していた自主事業は概ね実施され、幅広い世代に対し芸術鑑賞の機会を提供した。 ・自主事業の年間実施件数及び参加人数 習志野文化ホール 12件 12,061人 習志野市民ホール 32件 4,021人	令和5年3月31日をもって習志野文化ホールが長期休館に入ったが、公益財団法人習志野文化ホールや習志野市芸術文化協会と連携し、今後地域でのアウトリーチ事業等で鑑賞機会を提供していく。 また、市民ホールで開催される自主事業の中には定員充足率が低いものもあり、PR方法を検討するなどの工夫を行う。
			12.34.アウトリーチ事業による鑑賞機会の提供支援	生涯学習部社会教育課	B(21~79%)	習志野文化ホールとしての館外活動(アウトリーチ活動)については新型コロナウイルス感染症影響下での制限等ある中、調整が整わず開催を見送ったが、地域のイベント(津田沼南口/津田沼公園)に出演団体を紹介し、調整する等、地域活動への協力を積極的に行った。 市民カレッジ公開講座にて、元NHK交響楽団首席クラリネット奏者の横川晴児氏による演奏会(講義)を実施した。 来場者数 136人(うち、一般来場者81名) 市役所ハミング階段にて、市内で活動する団体(菊田神社囃子連、習志野お琴・三絃サークル)による演奏会を実施した。 お囃子:令和4年8月26日(金) 来場者 41人 お琴・三弦:令和5年1月4日(火) 来場者数 59人《再掲》	市庁舎のミニコンサートや美術展の開催、旧鴛田家住宅庭園でのコンサート等を企画・開催する等公益財団法人と連携し、積極的なアウトリーチ事業を支援していく。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化に触れる機会を提供	2 身近な場所で質の高い文化芸術鑑賞機会の提供	(2) 文化施設以外での鑑賞機会の提供	13.ICTを利用した文化資料や芸術作品の鑑賞機会の提供	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	「ならしの文化情報サイト文化のドア」に、社会教育課が所蔵する時田直善氏(本市を拠点に活躍した画家)の絵画作品を新たに6点撮影し、全17点を掲載した。また、昨年度に引き続き、習志野市美術会主催「市展」の受賞作品を掲載した。	作品に関する情報を適宜追加し、コンテンツの充実へ向けた取り組みを検討進める。
				生涯学習部図書館	A(80~100%)	令和元年3月より、デジタル化した習志野市内の古い写真や絵葉書をインターネット上で検索・閲覧できる「習志野市立図書館デジタルアーカイブ」を公開している。 ※令和5年3月31日現在 「習志野市立図書館デジタルアーカイブ」アクセス数 14,856件 令和4年5月より、図書館への来館が困難な方や通常の活字により読書が困難な方も「いつでも、どこでも」読書を楽しめる「習志野市電子図書館」を開始した。 ※令和5年3月31日現在 コンテンツ貸出点数 11,141点	引き続き、「習志野市立図書館デジタルアーカイブ」、「習志野市電子図書館」について周知を図る。
			14.39.文化を楽しむまち歩きができるガイドマップの作成	協働経済部産業振興課	A(80~100%)	ウォーキングルートで市内スポットを繋ぐ「ならしの駅からマップ」や「ぶらっと習志野観光ガイドブック」を施設などの窓口で配布し、本市の魅力を広く、周知することができている。	楽しくまち歩きをするガイドマップとして活用し、本市の魅力を継続して広く伝える。新たな活用方法等の検討が必要と考える。 令和5年度は「ぶらっと習志野観光ガイドブック」を改訂する予定であるため、各課に存在する「まち歩きに関するガイドマップ」などと連携し、付属の「習志野市観光ガイドマップ」について見直しを検討する。
				生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	・「習志野まちかど美術館ガイドマップ」の掲載内容、写真などの情報更新を行った。 ・市内の歴史的な場所や文化財の所在地をまとめた「習志野市 歴史・文化財マップ」を図書館・公民館・市民課連絡所に配置し、配布した。また、市内3図書館で開講した歴史講座「習志野市の歴史を深掘りしよう！」の受講者に配付し、講義の中で参照配布した。	習志野文化ホールの長期休館による情報更新等を含め、「習志野まちかど美術館ガイドマップ」を改訂し、ホームページ等で公開する。 令和5年3月1日付けで新たに「藤崎富士講社の富士塚」を文化財指定した為、「習志野市 歴史・文化財マップ」に「藤崎富士講社の富士塚」の情報を追記した上で、引き続き図書館・公民館・市民課連絡所で配布する。
	3 文化に関する情報の収集と提供	等(1)市ホームページ提供	15.文化関連のホームページの充実と情報の一元化	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	・「ならしの文化情報サイト文化のドア」に、社会教育課が所蔵する時田直善氏(本市を拠点に活躍した画家)の絵画作品を新たに6点撮影し、全17点を掲載した。また、昨年度に引き続き、習志野市美術会主催「市展」の受賞作品を掲載した。《再掲》	・各情報のさらなる充実を図るとともに、認知度上昇に向けた効果的な広報を検討する。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化をつなぐ継承と育成	1 子どもや若い世代が文化と出会うきっかけづくり	(1) 未就学の子どもの機会が文化芸術によって感性を育む提供	16.講座等でのアートスタートの実施	生涯学習部公民館	A(80~100%)	育児講座や、幼児家庭教育学級と並行して実施される保育等の18講座で、乳幼児の工作や人形劇・音楽の鑑賞等を実施した。	引き続き、乳幼児が文化芸術に触れるきっかけづくりを行う。
			17.ブックスタート事業の継続	こども部子育て支援課	A(80~100%)	・健康支援課が開催する4か月児健康相談の場において、民生委員児童委員の協力のもとブックスタートパック(絵本とコットンバッグ)を贈呈してきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、民生委員児童委員ではなく、健康支援課職員協力のもと実施。 ・絵本配布数: 1,064セット	健康支援課職員協力のもと実施する。民生児童委員の協力による配布については、健康支援課と協議して決定する。
				生涯学習部図書館	A(80~100%)	・特別にデザインした図書館カードである「誕生記念図書館カード」を親子で読んでほしい本をまとめたブックリストと共に新生児に配付した。 ※令和5年3月31日現在 ・誕生記念図書館カード配布枚数 1,121枚	引き続き、関係各課と連携しながら事業を進めていく。
			18.伝統文化が感じられる行事等の実施(子どもや若い世代)	こども部こども保育課 学校教育課	A(80~100%)	保育所・こども園・幼稚園18か所にてこどもの日、七夕、節分、ひなまつり、餅つき等、5種類の行事を実施した。	令和5年度も継続していく。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化をつなぐ継承と育成	1 子どもや若い世代が文化と出会うきっかけづくり	(2) 学校教育における文化芸術活動の推進	19.文化芸術鑑賞・制作・発表などの機会の提供	学校教育部指導課	A(80~100%)	ならしのこども美術館第15号が昨年度発行され、今年度を含め317部の購入があった。また、第16号発行に向け、第15号の作業等を振り返り、効率化や作業の軽減を図るよう検討することができた。また、文集「ならしの」第54号を発行し、481部を市内各小中学校や関係施設に配付した。個人の購入希望も336冊あった。	学校の授業においてタブレットで閲覧できるようデジタル化(DVD化)も検討していく。ならしのこども美術館については令和5年度以降は発行年度作品を基本とすることで、作品の保管作業や返却作業の仕事の軽減を図る。また文集「ならしの」についてはより幅広いジャンルの作品を掲載できるようにしていく。
				生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	習志野文化ホールの長期休館後も「ならしの学校音楽祭」が次年度以降継続出来るように他市のホールに働きかけた。	学校等のホール利用について円滑に利用出来るよう引き続き支援する。
			20.学校行事や部活動における音楽を発表する機会の充実	学校教育部学校教育課 学校教育部指導課	A(80~100%)	習志野市小中学校音楽会は、入場者を限定、進行の工夫をするなど、感染症拡大防止対策を講じて開催した。 習志野市小中学校管楽器講座も開催した。 小中学校管楽器講座実績:参加者数(実人数) 小学生103人、中学生 前期57人後期56人 計216人	令和5年度より、習志野文化ホールの長期休館の対策として、習志野市小中学校音楽会は八千代市市民会館にて開催予定である。 習志野市小中学校管楽器講座は、年間を通じて実施計画に沿って開催予定である。
			21.伝統文化が感じられる行事の実施	学校教育部学校教育課 学校教育部指導課	A(80~100%)	感染症対策を講じつつ、参集型の席書大会を実施した。80名を超える児童生徒が参加し、厳かな雰囲気の中、集中して自分の書に向き合う姿が見られた。席書大会で書かれた作品の中から特別賞を選び、市庁舎に展示した。	令和5年度は多くの保護者に対応できるよう会場を変えて実施する予定である。また、市庁舎の展示について、規模を拡大する検討をしている。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化をつなぐ継承と育成	2文化を次世代につなげる環境の整備	(1)文化の世代間交流の場の提供	22.27.「伝統文化親子教室」の開催支援	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	広く受講生を募るため。学校教育部と連携し、市内小中学校に、児童・生徒への各教室募集チラシ配布を依頼した。 【令和4年度伝統文化親子教室応募実績】 華道 15人 茶道 19人 琴・三弦 10人 書道 50人 「伝統文化お琴・三絃教室」については、ハミング階段でのコンサートを実施し、発表の場の提供を行った。来場者数 59人	伝統文化親子教室を周知し、参加児童の拡大を図るため、伝統文化親子教室事業に係る生徒募集チラシについて、多くの目に触れさせることが出来るよう保護者用連絡システムを利用した電子配布や、PTA連絡協議会、放課後子供教室等を通じた周知も実施していく。
			23.文化芸術団体の発表・展示の場への小中高生の参加環境支援	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	・習志野市美術展覧会へ習志野高等学校の美術部員を中心として作品を出品するよう促すため学校へのチラシ配布等について支援した。 ・高校生の出品人数 洋画11人 書15人	引き続き、小中高生が文化芸術団体の発表・展示の場への小中高生の参加環境を支援する。
			24.文化を通じた世代間交流の場づくり	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	NPO法人習志野第九合唱団と連携し、市内小中高生を対象に「習志野第九演奏会」のリハーサルを無料で公開した。 12/17開催 参加人数30人(小学生28人 中学生2人)	習志野文化ホールの長期休館により習志野第九演奏会の開催場所が市外となるが、現状に沿いつつ公開リハーサルの見学等についても引き続き支援する。
		(2)文化進財の保存の推	25.文化財の収集・保存の充実	生涯学習部社会教育課	B(21~80%)	埋蔵文化財関係の図書を購入し、資料の充実を図った。また、寄贈された図書の一覧表を作り、保存の充実を図った。 谷津貝塚出土鉄製品の一部について保存処理を行った。	谷津貝塚出土品を中心とした文化財の保存については専門的な保存処理が必要であることから、対応に係る予算の確保を図っていく。
			26.埋蔵文化財調査の充実	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	開発事業計画に伴い、埋蔵文化財保護を目的とした調査を実施した。主に遺跡の性質や範囲を確認するための確認調査を4件、遺跡の有無を確認するための試掘調査を5件実施した。さらに、花咲台遺跡I地点にかかる出土物の実測や分析調査、図面や写真の記録整理等を実施し、埋蔵文化財調査報告書1冊を刊行した。	令和6年度は鷺沼地区土地区画整理事業地内において向原南遺跡の本調査、八剱神社遺跡において試掘調査が予定されている。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化をつなぐ継承と育成	3 伝統文化を担う子どもや若手の育成	(1) 伝統文化を担う子ども・若者の育成	22.27.「伝統文化親子教室」の開催支援<<再掲>>	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	広く受講生を募るため。学校教育部と連携し、市内小中学校に、児童・生徒への各教室募集チラシ配布を依頼した。 【令和4年度伝統文化親子教室応募実績】 華道 15人 茶道 19人 琴・三弦 10人 書道 50人 「伝統文化お琴・三絃教室」については、ハミング階段でのコンサートを実施し、発表の場の提供を行った。来場者数 59人	伝統文化親子教室を周知し、参加児童の拡大を図るため、伝統文化親子教室事業に係る生徒募集チラシについて、多くの目に触れさせることが出来るよう保護者用連絡システムを利用した電子配布や、PTA連絡協議会、放課後子供教室等を通じた周知も実施していく。
			28.伝統芸能の体験支援	学校教育部指導課	A(80~100%)	袖ヶ浦東小学校を中心に袖ヶ浦地区において和太鼓の演奏を積極的に行っている。 香澄小学校では、令和4年10月「伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業」における能楽の鑑賞・体験活動を実施した。また、令和4年11月「芸術家派遣事業」における和太鼓演奏の鑑賞・体験活動も実施をした。	国の事業等を活用し、伝統芸能の鑑賞・体験活動の推進をする。和太鼓や箏は備品として所有している学校が限られているため、情報を各学校で共有し、より多くの児童生徒が体験できるようにする。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	華道や着付け、和太鼓やかかるた等、13講座が実施され、子どもを中心にのべ598人が参加した。	引き続き、各公民館のサークル団体の協力を得て、伝統芸能の活動を体験できる講座等を開催する。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化を活かす活用	1「音楽のまち習志野」の推進	支える「音楽のまち」や学校・団体の活動を	29.コンクール優秀団体の発表の場と鑑賞機会の提供	学校教育部指導課	A(80~100%)	ならしの学校音楽祭は、入場者を出演者の保護者に限定し開催した。 (ならしの学校音楽祭実績: 令和5年3月3日実施 出演者・来場者数 3,308人)	ならしの学校音楽祭は、令和6年3月3日に市川文化会館で開催する予定である。
			30.身近なところで子ども達が目標を持つことができる環境の維持	学校教育部学校教育課 学校教育部指導課	A(80~100%)	ならしの学校音楽祭は、入場者を出演者の保護者に限定し開催した。 (ならしの学校音楽祭実績: 令和5年3月3日実施 出演者・来場者数 3,308人)《再掲》	ならしの学校音楽祭は、令和6年3月3日に市川文化会館で開催する予定である。《再掲》
		(2)音楽に親しみ人々との交流を図る環境づくり	31.地域が一体となって行うコンサートの実施	生涯学習部公民館	A(80~100%)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度・3年度に中止したコンサートやライブを3年ぶりに6公民館で合計8回開催し、4,193人の来場者が身近な場所で音楽を楽しんだ。	引き続き、公民館が学習圏会議や地域とともに連携して、様々な世代等の交流が深まるようコンサートを実施する。
			32.地域の人材を活かした音楽会の実施	生涯学習部社会教育課 生涯学習部公民館	A(80~100%) A(80~100%)	市民カレッジ公開講座にて、元NHK交響楽団首席クラリネット奏者の横川晴児氏による演奏会(講義)を実施した。 来場者数 136人(うち、一般来場者81名) 市役所ハミング階段にて、市内で活動する団体(菊田神社囃子連、習志野お琴・三絃サークル)による演奏会を実施した。 お囃子: 令和4年8月26日(金) 来場者 41人 お琴・三絃: 令和5年1月4日(火) 来場者数 59人《再掲》	地域の音楽家に発表機会を提供するとともに、公益財団法人 習志野文化ホールと連携し、登録制度についても検討する。
					A(80~100%)	3公民館で合計6回、地域の方による音楽会を催し、150人の来場者が音楽を楽しんだ。	今後も地域の音楽活動が活性化するような、地域で活躍する音楽家や音楽団体が発表出来るような場を提供していく。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化を活かす活用	1「音楽のまち習志野」の推進	(3)「音楽のまち」を象徴する習志野文化ホールの充実	11.33.文化芸術の鑑賞機会の提供《再掲》	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	習志野文化ホールと市民ホールでは、開催を予定していた自主事業は概ね実施され、幅広い世代に対し芸術鑑賞の機会を提供した。 ・自主事業の年間実施件数及び参加人数 習志野文化ホール 12件 12,061人 習志野市民ホール 32件 4,021人	令和5年3月31日をもって習志野文化ホールが長期休館に入ったが、公益財団法人習志野文化ホールや習志野市芸術文化協会と連携し、今後地域でのアウトリーチ事業等で鑑賞機会を提供していく。 また、市民ホールで開催される自主事業の中には定員充足率が低いものもあり、PR方法を検討するなどの工夫を行う。
			12.34.アウトリーチ事業による鑑賞機会の提供支援《再掲》	生涯学習部社会教育課	B(21~80%)	習志野文化ホールとしての館外活動(アウトリーチ活動)については新型コロナウイルス感染症影響下での制限等ある中、調整が整わず開催を見送ったが、地域のイベント(津田沼南口/津田沼公園)に出演団体を紹介し、調整する等、地域活動への協力を積極的に行った。 市民カレッジ公開講座にて、元NHK交響楽団首席クラリネット奏者の横川晴児氏による演奏会(講義)を実施した。 来場者数 136人(うち、一般来場者81名) 市役所ハミング階段にて、市内で活動する団体(菊田神社囃子連、習志野お琴・三絃サークル)による演奏会を実施した。 お囃子: 令和4年8月26日(金) 来場者 41人 お琴・三絃: 令和5年1月4日(火) 来場者数 59人《再掲》	公益財団法人習志野文化ホールはアウトリーチ事業を積極的におこなっていくためそれを支援していく。
			35.音の響きを重視した誰もが利用しやすい文化ホールの再整備の検討	政策経営部総合政策課	A(80~100%)	検討専門委員会やパブリックコメント等で意見を伺い、令和4年7月に「習志野文化ホール再建設基本構想」を策定し、基本方針で音の響きを重視した多目的ホール、誰もが利用しやすい施設を目指すこととした。また、基本構想の設置理念や特徴、基本方針等を実現すべく、令和5年3月に「習志野文化ホール再建設基本計画」を策定した。 再建設に向け、再開発事業者と協議を進めた。	基本構想と基本計画に基づき、より良いホールとなるよう、JR津田沼駅南口市街地再開発事業と合わせて、引き続き、再開発事業者と協議を行う。 再開発事業に関し、令和5年6月に事業者と確認書の締結しており、現在地に再建設することで基本設計を開始する。 より良いホールとなるよう協議、設計を進めていくが、事業費の圧縮にも努める必要がある。併せて、市民の文化芸術活動のためにも、工期の短縮も検討し、なるべく早い時期での開館を目指す必要がある。
				生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	総合政策課が事務局である習志野文化ホール再建設基本計画等策定委員会に、オブザーバーとして出席。現在のホールの利用状況など情報提供を行い、総合政策課との連携を図った。	誰もが利用しやすい質の高い芸術を楽しめる環境づくりに向けて、引き続き関係各課と連携を図る。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化を活かす活用	2 文化的な資源の活用	(1) 文化財等文化的な資源の周知	36.教育等と連携した文化的な資源の活用	学校教育部指導課	A(80~100%)	教師と学校司書とで連携を図り、学校図書館や地域図書館を有効に活用して学習時に多くの本を利用できるよう取り組んできた。取り組み事例が増えてきている。	学校図書館のさらなる有効活用とともに、地域図書館との積極的な連携を図れるよう研究校を指定して取り組んでいく。
				生涯学習部社会教育課	B(21~79%)	江戸川大学の学生3名を令和4年8月22日~26日(5日間)インターンシップで受入れ、埋蔵文化調査室にて資料整理等の実習指導を行った。図書館主催の歴史講座に講師を派遣し、3回で59人参加。新型コロナウイルス感染症の影響で職場体験の実施がなかった。	新型コロナウイルス感染症等の状況等に影響されるが、インターンシップや職場体験、学習会等からの依頼に積極的対応し、教育機関と連携していくことが重要である。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	千葉県指定無形文化財である七年祭りや地域の史跡を活かした講座等を12事業実施し、のべ256人が参加した。	今後も地域の文化的な資源を活用し、幅広い市民が地域に親しみを感じられるような講座を実施する。
				生涯学習部図書館	A(80~100%)	習志野市及び千葉県に関する図書や行政資料を収集し、各図書館に設置した「郷土行政資料コーナー」に並べている。また、習志野市に関する資料リストを作成し図書館ホームページに公開している。「習志野市立図書館デジタルアーカイブ」を活用し、東習志野図書館、新習志野図書館、谷津図書館では関連講座を実施した。一般向け講座「習志野市の歴史を深掘りしよう！」参加者59人(3館)	「郷土行政資料コーナー」及び「習志野市立図書館デジタルアーカイブ」について、積極的に関係各課に発信し、利用の促進を図る。
			37.文化財等文化的な資源の情報発信の充実	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	「ならしの文化情報サイト文化のドア」に、社会教育課が所蔵する時田直善氏(本市を拠点に活躍した画家)の絵画作品を新たに6点撮影し、全17点を掲載した。 令和4年度から埋蔵文化財調査室での常設展示を実施、約10組の見学者があった。 また、1階展示スペースにて3期に分け小企画展を開催した。 ・「習志野市ゆかりの品」(令和4年2月1日~9月7日) ・「定点記憶 昭和29年」(令和4年9月7日~12月6日) ・「第一次世界大戦時の独逸同盟軍俘虜収容所と、現代習志野に生きるドイツ文化」(令和4年12月6日~)	インターネット上のみで公開している作品は、実物を展示する方法について検討する。 令和4年度から埋蔵文化財調査室での常設展示を実施しているが、1Fロビーなどにおいて雨漏りが多発しており、今後悪化した場合は展示の公開中止もあり得る。また、市庁舎1階展示スペースでは、今後も年3回程度テーマに沿った展示を実施していく。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化を活かす活用	2 文化的資源の活用	(2) 文化と他分野との連携による地域の活性化につながる仕組みづくり	38.特産品開発等の産業への文化の活用	協働経済部産業振興課	A(80~100%)	習志野市で製造・加工・販売される食品・工芸品等で、習志野市らしさを表現する商品を「習志野市ふるさと産品」として、新たに認定されたものはないが、にんじん、バラ、ドイツとの交流の歴史など、習志野市ゆかりの原材料や、エピソードをモチーフとした商品を市内外にPRするツールとして活用した。 令和4年度は、市民まつりや農業祭など、直接イベント等でPRすることが出来た。	習志野商工会議所などと連携を図り、地域の活性化につながる、習志野市らしさを表現する商品の開発等に向け検討していく。
			14.39.文化を楽しむまち歩きができるガイドマップの作成<<再掲>>	協働経済部産業振興課	A(80~100%)	ウォーキングルートで市内スポットを繋ぐ「ならしの駅からマップ」や「ぶらっと習志野観光ガイドブック」を施設などの窓口で配布し、本市の魅力を広く、周知することが出来ている。	・楽しくまち歩きをするガイドマップとして活用し、本市の魅力を継続して広く伝える。新たな活用方法等の検討が必要と考える。 ・令和5年度は「ぶらっと習志野観光ガイドブック」を改訂する予定であるため、各課に存在する「まち歩きに関するガイドマップ」などと連携し、付属の「習志野市観光ガイドマップ」について見直しを検討する。
				生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	「習志野まちかど美術館ガイドマップ」の掲載内容、写真などの情報更新を行った。 市内の歴史的な場所や文化財の所在地をまとめた「習志野市 歴史・文化財マップ」を図書館・公民館・市民課連絡所に配置し、配布した。また、市内3図書館で開講した歴史講座「習志野市の歴史を深掘りしよう！」の受講者に配付し、講義の中で参照配布した。	習志野文化ホールの長期休館による情報更新等含め、「習志野まちかど美術館ガイドマップ」を改訂し、ホームページ等で公開する。 令和5年3月1日付けで新たに「藤崎富士講社の富士塚」を文化財指定した為、「習志野市 歴史・文化財マップ」に「藤崎富士講社の富士塚」の情報を追記した上で、引き続き図書館・公民館・市民課連絡所で配布する。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度 実施状況 個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化を活かす活用	3 公民館活動等を通じたまちづくり	(1) 交流を促す文化活動の活性化	40. 交流を通じた発表の場づくり	協働経済部協働政策課	A(80~100%)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ミニコンサートや各サークル活動団体の活動発表などの事業を行った。 【ミニコンサート】 参加人数46人	令和5年度も引き続き事業を実施する。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	各館で開催された市民文化祭では、198団体が実演や展示による発表を通じ交流を深めた。	引き続き各団体が作品や音楽などの発表を通じて交流を深められる場を提供していく。
			41. 展示スペースの提供	協働経済部協働政策課	A(80~100%)	市民文化祭において作品発表のための展示を行ったほか、地域の大学との連携による写真展や花の実園による「ちぎり絵展」を行った。 【市民文化祭】 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、コミュニティセンター4館全てにおいて計8日間にわたり市民文化祭を開催し、延べ4,201人が来場した。 【写真展】 常設展示のため参加人数不明 【ちぎり絵展】 延べ約5,500人	令和5年度も引き続き事業を実施する。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	日常的には公民館で活動するサークル等の作品を常設、または入替制で展示している。	引き続き、展示スペースの場を提供し、発表と交流の場を創出する。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的な数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や令和5年度以降の実施予定
文化を活かす活用	3 公民館活動等を通じたまちづくり	(2) 大学と連携した公民館活動	42.地元大学と連携した公民館事業の実施	生涯学習部公民館	A(80~100%)	6講座・事業において、地元大学の学生(延べ82人)の協力を得て、子どもたちがスノードーム、キャンドル作り、プログラミングの体験等を楽しんだ。	引き続き地元大学と連携し、大学生と子どもたちが交流を深められるような講座等を企画・実施する。
			43.学生の公民館活動への参加機会の提供	生涯学習部公民館	A(80~100%)	7講座において、地元高校や大学に通う学生(延べ216人)が子ども講座でのボランティア体験や小学生との交流活動の企画・運営に参加した。	引き続き、学生等が参加しやすいような環境づくりや周知方法を検討し実施していく。
		(3) 社会教育を通じた地域の魅力の発信	44.まちづくりや地域の魅力について話し合う場の提供	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	市民活動の初動支援・活動補助を行うフューチャーセンターにおいて、活発な活動が行われた。 ・市民活動導入促進講座(暮らし楽しむスクール) 延べ8回 98人参加 ・企画発表(はじめてみたい発表会)、企画相談(はじめてみよう相談会) 延べ10回 72人参加 ・市民活動初動応援開催イベント 延べ4回 722人参加 ・クリエイターズクラブ新規登録者数 73人(登録人数210人)	引き続き、市民活動の初動支援・活動補助を行う。未だに何をしている場所なのかがわかりづらいという声もあり、潜在的な利用者を発掘しきれていないという課題がある。また、クリエイターズクラブの登録者数は増加しているが、その人たちをどのように次の活動に繋げていくかが課題である。
				生涯学習部公民館	A(80~100%)	各公民館を拠点に設置された学習圏会議を中心に市民協働での音楽会やまち歩き等の地域イベントを企画・実施し、年末年始にはクリスマス会、かるた会や門松・しめ飾りづくりを実施した。	引き続き、学習圏会議等、まちづくりや地域の魅力について話し合う場を提供する。
			45.地域を活性化させるイベントやまつりの実施	生涯学習部公民館	A(80~100%)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部のイベントは中止となったが、13の講座・事業に延べ1,612人が参加し、賑わいを取り戻しつつある。	引き続き、地域活性化に寄与することを目的として、公民館で行うまつりやイベントを地域と連携して開催する。

習志野市文化振興計画実施状況調査表(R4)

A: 実施予定事項が概ねできた(80~100%) B: 実施予定事項が一部できた(21~79%) C: 実施予定事項が全くできなかった(0~20%)

方向性	施策	小施策	取り組み内容	担当部担当課	令和4年度実施状況個別判定	[令和4年度] A又はBをつけた場合は、実施状況を可能な限り具体的数値も入れて記載してください。 Cをつけた場合は実施できなかった理由などを記載してください。	事業実施における課題点や 令和5年度以降の実施予定
文化を活かす活用	3 公民館活動等を通じたまちづくり	(4) 地域を担う人材の活用	46.生涯学習複合施設としてのプラッツ習志野の活用	生涯学習部社会教育課	B(21~79%)	市民活動の初動支援・活動補助を行うフューチャーセンターにおいて、活発な活動が行われた。 ・市民活動導入促進講座(暮らし楽しむスクール) 延べ8回 98人参加 ・企画発表(はじめてみたい発表会)、企画相談(はじめてみよう相談会) 延べ10回 72人参加 ・市民活動初動応援開催イベント 延べ4回 722人参加 ・クリエイターズクラブ新規登録者数 73人(登録人数210人)《再掲》 複合施設の利点を活かし、公民館と図書館の合同事業が行われた。施設全体での一体的イベントについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部活動が制限された。	指定管理者の自主事業として、複合施設の利点を活かした施設全体での一体的イベントの実施、マルシェの開催、夏まつりの開催など、様々なイベントを実施していく。
				生涯学習部公民館	B(21~79%)	フューチャーセンター協働事業としてクリエイターズクラブ会員7人が寿学級の各講座において講師を務めた。プラッツ習志野に設置しているフューチャーセンターでは、日ごろから地域で活動したい市民が訪れていることから、中央公民館も活動支援のため、職員を1人配置し、フューチャーセンターとの連携を図った。	プラッツ習志野を活用し、地域で活動したい市民が生き生きと活躍できるよう、引き続き、フューチャーセンターと中央公民館が連携して協働事業を実施する。
			47.市民カレッジ卒業生が活躍できる仕組みづくり	生涯学習部社会教育課	A(80~100%)	谷津干潟のボランティアをカリキュラムの中で体験(受講任意)したところ3人が新たに加わった。 『市民カレッジOBボランティア』として30人が登録している。社会教育課主催「ハミング階段コンサート」、「習志野文化ホールありがとうまた会いましょう」(記念演奏会)にて受付や会場案内を担当した。	履修することによりボランティア等につなげられるようなカリキュラムを継続したい。 やがて公民館等でも主体的に活動出来るよう橋渡しをしていく。